

授業概要

科目名	臨床医学総論Ⅱ			授業の種類	講義	講師名	三村 佳祐
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>現在の医療現場では多くの医療職が関わるのが特徴である。臨床工学技士はこの「チーム医療」を担う医療職の一員として、患者の情報を共有するための医学的知識が必須である。また検査や治療により深く携わり診療の補助を担うためには疾患に対する理解が必須となる。</p> <p>【実務者経験】臨床工学技士として姫路聖マリア病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>臨床工学技士に必要な疾患の原因と病態変化、検査、治療などについての概要を解説する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原因と病態について概要を説明することができる。 ・各種検査値、疾患と治療方針についての知識を見につける。 							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	授業ガイダンス、単位認定について理解できる						
2	「外科学総論」基本的な手術操作と手術機器、侵襲と生体反応について理解できる						
3	「外傷学総論①」外傷のプライマリケアについて理解できる						
4	「外傷学総論②」脳神経領域、整形外科領域の外傷学について理解できる						
5	「循環器病学①」血圧の異常について理解できる						
6	「循環器病学②」血管病学について理解できる						
7	「循環器病学③」先天性心疾患について理解できる（1）						
8	「循環器病学④」先天性心疾患について理解できる（2）						
9	「循環器病学⑤」先天性心疾患について理解できる（3）						
10	「循環器病学⑥」後天性心疾患について理解できる（1）						
11	「循環器病学⑦」後天性心疾患について理解できる（2）						
12	「循環器病学⑧」後天性心疾患について理解できる（3）						
13	中間試験						
14	「呼吸器病学①」呼吸器感染症について理解できる						
15	「呼吸器病学②」閉塞性肺疾患について理解できる						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床工学講座 臨床医学総論、篠原 一彦ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章ほか、金原出版株式会社 <p>【準備学習・時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください。 <p>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</p> <p>試験の結果を100点満点として評価する 小テスト20点、中間テスト30点、定期試験50点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する</p>							

授業概要

科目名		臨床医学総論Ⅱ			授業の種類	講義	講師名	三村 佳祐	
授業回数	30 回	時間数	60 時間	2 単位	必修・選択	必須	配当学年 時期	2年	後期
【授業の目的・ねらい】 現在の医療現場では多くの医療職が関わるのが特徴である。臨床工学技士はこの「チーム医療」を担う医療職の一員として、患者の情報を共有するための医学的知識が必須である。また検査や治療により深く携わり診療の補助を担うためには疾患に対する理解が必須となる。									
【実務者経験】臨床工学技士として姫路聖マリア病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。									
【授業全体の内容の概要】 臨床工学技士に必要な疾患の原因と病態変化、検査、治療などについての概要を解説する。									
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・内科系疾患の原因と病態について概要を説明することができる。 ・各種検査値、疾患と治療方針についての知識を見につける。									
回数	講義内容							準備物(教材)	
16	「呼吸器病学③」拘束性肺疾患について理解できる								
17	「呼吸器病学④」呼吸不全について理解できる（1）								
18	「呼吸器病学⑤」呼吸不全について理解できる(2)								
19	「呼吸療法学⑥」腫瘍性疾患について理解できる								
20	「呼吸療法学⑦」肺循環疾患、胸膜疾患について理解できる								
21	「消化器病学①」食道疾患について理解できる								
22	「消化器病学②」胃・十二指腸疾患について理解できる								
23	「消化器病学③」小腸疾患とイレウスについて理解できる								
24	「消化器病学④」大腸疾患について理解できる								
25	「消化器病学⑤」肝疾患」について理解できる								
26	「消化器病学⑥」胆道・膵臓疾患について理解できる								
27	「麻酔・集中治療学①」全身麻酔と局所麻酔について理解できる（1）								
28	「麻酔・集中治療学②」全身麻酔と局所麻酔について理解できる（2）								
29	「麻酔・集中治療学③」集中治療医学に必要な知識について理解できる								
30	まとめ								
	定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 臨床医学総論、篠原 一彦ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章ほか、金原出版株式会社									
【準備学習・時間外学習】 ・事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください。									
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】									
試験の結果を100点満点として評価する 小テスト20点、中間テスト30点、定期試験50点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する									